

# 特集 誰のための改憲か？

任期中の改憲を明言する安倍首相のもと、着々と憲法「改正」の流れがつくられている。改憲論に惑わされずに平和憲法を活かす道について、「ダマシ」をテーマにした著書を多く出す安齋育郎氏に聞いた。

## ダマされないために

安齋 育郎

立命館大学教授・国際平和ミュージアム館長



「わだつみの像」の前に立つ安齋育郎氏

多くの若い人は、どのような経緯をたどって日本国憲法がつくられたのか、先の15年戦争がどれほど悲惨なものであったのか、についてあまり知らされていません。私のいる立命館大学の学生たちをみてもそう感じます。その若い人たちに、憲法の問題に重大な関心を寄せてもらうことが、今、決定的に大切になっていきます。

### 戦後の改憲の流れ

日本国憲法は、それに先立つ「15年戦争」の一種の総括文書です。また、アジア太平洋諸国に対して日本の責任を明らかにし「二度と戦争はしません」と誓約した文書でもあります。

ところが、憲法がつくられた直後に、その憲法制定を指導したはずのアメリカが、中国やソ連の共産主義勢力の拡大を防ぐ防波堤と日本を位置付けなおし、日本国憲法を邪魔にしはじめました。朝鮮戦争が1950年に始まりアメリカの兵隊に代わって日本の治安を守る部隊として警察予備隊を設置。52年に保安隊、54年に自衛隊になり、こうして憲法9条2項に反して日本の軍隊が

つくられました。憲法違反をごまかすために「戦力ではなく実力である」などという言い訳、詭弁が弄されてきました。

ひとたび軍隊がつけられると、やがて核兵器を持つのも違憲ではないという議論さえされるようになります。57年には岸信介首相が「自衛のための最小限度を超えない限り核兵器の保有も憲法違反ではない」と発言しました。98年のインド・パキスタンの核実験の際には参議院で、大森内閣法制局長官が「核兵器の使用もまた自衛のための最小限度を超えない限り憲法違反ではないということに、論理的にはなろうかと思いません」と答え、核兵器を持つだけではなく使うことも自衛のためなら憲法違反ではないとまでエスカレートしています。

いくら何でもこれ以上の解釈改憲はできないと、90年代以降、「論憲」と称して明文改憲の議論が始まりました。最初は憲法を論じるくらいはいいだろうといながら、今世紀に入るといに具体的な日程つきで憲法を変えることが明言されました。政府与党案の主要な眼目は、憲法9条2項で自衛軍を位置づけることと、96条に関して憲法を変える

# 改憲論に

立命館大学国際平和ミュージアム  
開館時間 9時半～16時半(月曜日休館)  
入館料 大人400円/中高300円/小200円  
京都駅より市バス50にて「立命館大学前」下車5分  
問合せ 075(465)8151  
<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/>

ハードルを低くすることの二つです。こうして、今国会で国民投票法案成立に向け、合意形成を見ないままに突っ走ろうとしている、そういう状況に私たちはおかれています。

## 憲法でこそ平和を守れる

この中で、少し遅きに失した感もあります。9人の文化人が「9条の会」を呼びかけたことには大きな意味があると思います。呼びかけから2年半の間に、全国の地域・職域に6千を超える「9条の会」ができています。これだけ広範な運動はビキニ事件以来じゃないでしょうか。

あのときの原水禁運動では、次から次へと燎原の火のごとく署名運動の組織がつけられていきました。

「9条の会」の広がりには、この国の心ある人たちが、日本国憲法が直面している事態を懸念し、改憲の流れをなんとか食い止めたかと思っている、その強い意志の表れだと思えます。だから、私も可能な限り講演に出かけるようにしています。

ただ、地方の「9条の会」に参加してみると、まだ年配者が優勢で若い方々の関心が低いように感じられます。私自身も大学教授として、日本国憲法の問題が若い人たちに端的に伝わるように話しかけていく必要

があると思っています。

その点で私は、「憲法を守る」ではなく「憲法で守る」という言い方をしています。「憲法を守る」というと「そんなことで日本の安全は守れるのか」と右翼的な人びとから攻撃されます。それに対して、「日本国憲法の不戦平和主義でこそ日本の平和と安全は豊かに守れる」と積極的に主張し、日本の安全保障政策をこの考えのもとに組み立てなおすべきだと主張しています。

最近の講演などで、もし安齋育郎が内閣総理大臣になったらこうするという安齋育郎の安全保障政策を、施政方針演説として発表しています。

その内容は今ある憲法を守れというのではなく、憲法でこそ日本の平和と安全は守られる、我々の生きる将来が守られるというところに力点をおいて、積極的に打って出るべきだと言っています。それが若者たちに理解してもらっていると感じています。

## 空想的な議論

最近、北朝鮮の核開発のことが話題になります。北朝鮮がミサイルを撃ち上げたり核実験をやったりする

と、「それ見たことか。隣国の厄介な国が軍備を増強し核兵器まで持っている以上、こちらが無防備であつていいはずがない」と言いながら、憲法を変えて軍隊を位置づけるべきだとか、場合によっては核武装もすべきだし非核三原則も見直すべきだという主張が聞かれるようになっていきます。

しかし、よく考えてみてください。北朝鮮がそういう行動をとったからといって、直ちに対抗して軍事的な措置をとることが好ましい政策なのでしょうか。ミサイルを5、6発撃つても緒戦を飾るだけです。北朝鮮が日本に勝とうとするなら、海を越えて数十万の軍隊を日本に派遣し、日本を事実支配しないといけません。ベトナム戦争ではアメリカが55万人の兵を派遣しても、軍事的・政治的に敗北したわけです。他国に軍隊を派遣してその国を支配するのがいかに難しいかは、超大国アメリカが実証しています。だから、北朝鮮という自国の国民も十分に食べさせられないような国が何十万という兵隊を日本に派遣して実質支配するなどということは到底できるはずがありません。

だから、北朝鮮がミサイルを撃ち